

令和6年度

阿南市立椿町中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自ら考え、判断し、表現できる生徒を育てるための創意工夫のある授業の実践
- 認め合い、意思の疎通を図り、学びあう授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭 久家 陽子	校長 松田 和代 教頭 三好 英夫 研修主任・小中一貫コーディネーター 久家 陽子

校長

松田 和代

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の「椿中タイム」での読書、計算、英単語、視写、により、読み書きの基本的なことについては一定の成果が見られ、自信をもつ生徒が多い。 ●各自の不得手な学習をそのまま放置している生徒が見られ、知識の定着が不十分な生徒への学習意欲の喚起や支援体制の改善・充実が課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができ、正しい言葉で文章を読んだり書いたりできる。 ・身に付けた知識や技能を、生活の場面や他の学習に活用することができる。 ・テスト等を通して自分の不得意分野に気づき、重点的に学習することができる。	・毎時間の「目標(めあて)」「学習課題」の提示を行い、計画的な指導をする。 ・わかりやすい授業を展開するとともに、毎時間の「まとめ」を行う。 ・生徒が興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・自主学習ノート等を活用し、テスト直しをするよう指示し、点検や助言をする。		・めあてを提示し、本時の内容の見直しをもたせることによって、授業の展開がスムーズであった。 ・学力定着のため、まとめの時間を確保し、授業の振り返りを確実に行うことができた。 ・毎日のセミナーや自主学習ノートを確実に行うことで、基礎的な知識の定着につながった。 ・丁寧にテスト直しをすることで、学習の定着につなげることができた。	・授業中にまとめまでたどり着けない生徒に対しては個々の対応を丁寧に行う。 ・家庭学習の内容や方法の具体的な指示を明確に行い、確実に家庭学習に取り組ませる。 ・狭い範囲の課題を数回に分けて復習するなど見直しをもって取り組むことができるようにする。 ・身に付けた知識や技能を、生活の場面や他の学習に活用することができるようにする。
○個人差はあるものの、学習した知識を活用して課題に取り組もうとする生徒が多い。 ●自分の考えを表現したり、互いの考えを交流したりすることに課題が見られる。	・他の生徒にわかりやすく説明したり、相手の意見を聞いて、さらに意見を述べたりすることができる。 ・広い視野を持ち、多様な意見を理解し、互いに話し合い解決する方法を考案することができる。	・多様な意見や考えがうまれるような体験活動を積極的に取り入れる。 ・学習活動の中で自分の思いや考えを筋道を立てて書いたり、伝え合ったりする機会を意図的に取り入れる。 ・全校で学ぶ機会を設け、できるだけ多様な考えに触れられるようにする。		・総合的な学習の時間の授業を全校で行い、多様な意見を引き出すことができた。 ・自分の言葉で伝えることを授業の活動として取り入れることで、自信をもつことができた生徒がいた。 ・ALTが主導になった授業では、活発な言語活動が見られ、多様な意見を理解し、認め合うことができた。	・お互いの意見を尊重し合う受容的な雰囲気作りを心がける。 ・普段の授業でも積極的に生徒間のコミュニケーションの場を設けるよう努める。 ・協働学習や伝え合う活動など共に考える時間の設定をする。
○地道に学習に取り組む、学習や生活のきまりをしっかり守り、落ち着いた学校生活を送ることができる。 ●疑問に思うことを調べたり、質問したりする積極性や家庭での学習習慣の定着に課題が見られる。	・課題に積極的に取り組み、わからないことや疑問に思うことを調べたり、質問したりする中で学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。 ・課題提出率100%をめざす。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にもある、ノート指導を徹底する。 ・生徒の興味・意欲を喚起し、生徒が主体的に取り組める授業実践をする。 ・個人面談や学年だより等を通して家庭での学習習慣の啓発・定着を図る。 ・学力定着のための家庭学習の内容や方法を、具体的に指示し点検する。		・わからないことに対して、自分で調べたり、人に聞いたりすることが増えた。 ・タブレットを使って学習内容の確認や疑問点を調べる生徒が増え、積極的に学ぼうとする姿勢が見られた。 ・デジタル教科書を活用し、視覚化された情報を増やすことで、興味関心を高めることができた。	・自分の進路についてしっかり考え、明確な目標をもつこと、それを達成するための実践力を養うことが大切である。将来のビジョンをできるだけ具体的に考えさせる。 ・机間巡視などで生徒が個別に問いかける場を増やし、疑問点を出させる。 ・生徒にとって身近な題材を活用し、興味・関心を引き出す工夫をする。

令和6年度 学力向上ロードマップ

